

各水試発トピックス

26年前と同じ水域で漁獲された南方系の魚～ギス～

2013年3月4日、礼文島金田岬の沖合で珍しい魚が獲れた、とのことで沖合底曳網船第二十八大忠丸の谷津様より、稚内水産試験場に1尾の魚が持ち込まれました。当场で調べたところ、背鰭基底長が頭長よりもはるかに長い、背鰭軟条数が55～65軟条（59軟条）、臀鰭起部が背鰭基底終端より前方にある、などの特徴から、この魚はギス科のギスという魚（学名；*Pterothrissus gissu*）であることが分かりました。


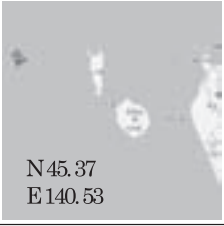
ギスは、函館以南太平洋岸と新潟県から鳥取県の日本海、九州や沖縄の沖合に分布する魚で、本来北海道北部には分布していない魚です。分類的には、カライワシ目ギス科に属する魚で、ギス科は本種のみが知られています。カライワシ目の魚はウナギやアナゴの仲間同様、レプトケファルス幼生という透明なヤナギの葉のような形をした幼生期を経ることが知られています。本州では主にすり身などの加工原料として食用にされるようです。

稚内水産試験場には、26年前の1987年3月12日にも同じく金田岬の沖合でギスが漁獲されたという記録が残っていました。

今回持ち込まれたギスは海流などの影響でたまたま日本海の北部までやってきたものと思われませんが、漁獲された場所と時期が26年前とほとんど同じであることから、ひょっとするとギスの生態と関係があるのかもしれませんが。

（田園大樹 稚内水産試験場調査研究部）

表 ギスの漁獲記録

日時	1987年3月12日	2013年3月4日
漁場	礼文島北 金田岬の沖合	金田岬の沖合
		
漁法	沖合底曳網 (かけ廻し)	沖合底曳網 (かけ廻し)
水深	320m	270m

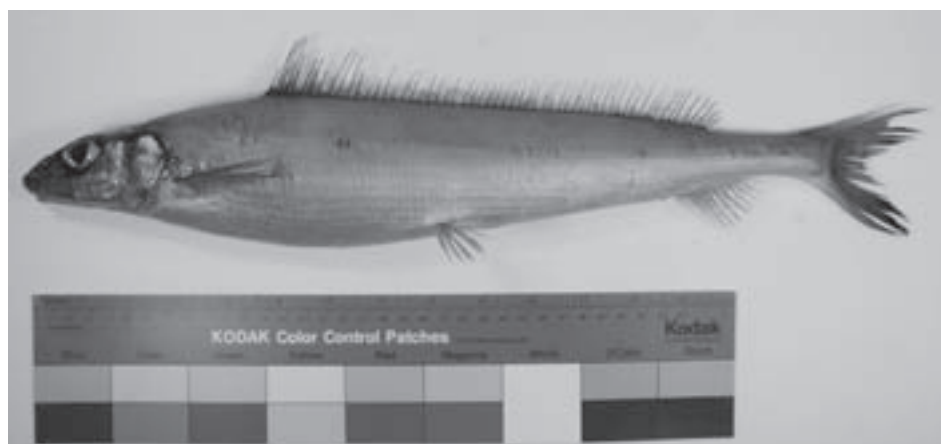


写真 2013年3月4日に漁獲されたギス（TL：458.5mm、BW：548.9g）